

# 青葉区明るい選挙推進作文コンクール

## 2023 入賞作品集



ぼく、「えら坊」！

平成9年12月25日生まれの青葉区の選挙マスコットキャラクター！区民の皆様からご応募いただいた519点のデザインの中から選ばれたんだ♪

青葉区民まつりなど各種イベントで、不正のない明るい選挙の推進や投票率の向上の呼びかけをしているよ。



### ☆明るい選挙推進協議会とは

- ① 不正のないきれいな選挙（寄附の禁止）
- ② 投票総参加の推進

を大きな柱として活動をしている団体で、全国の都道府県・市区町村に設置されています。

### ☆青葉区明るい選挙推進協議会とは

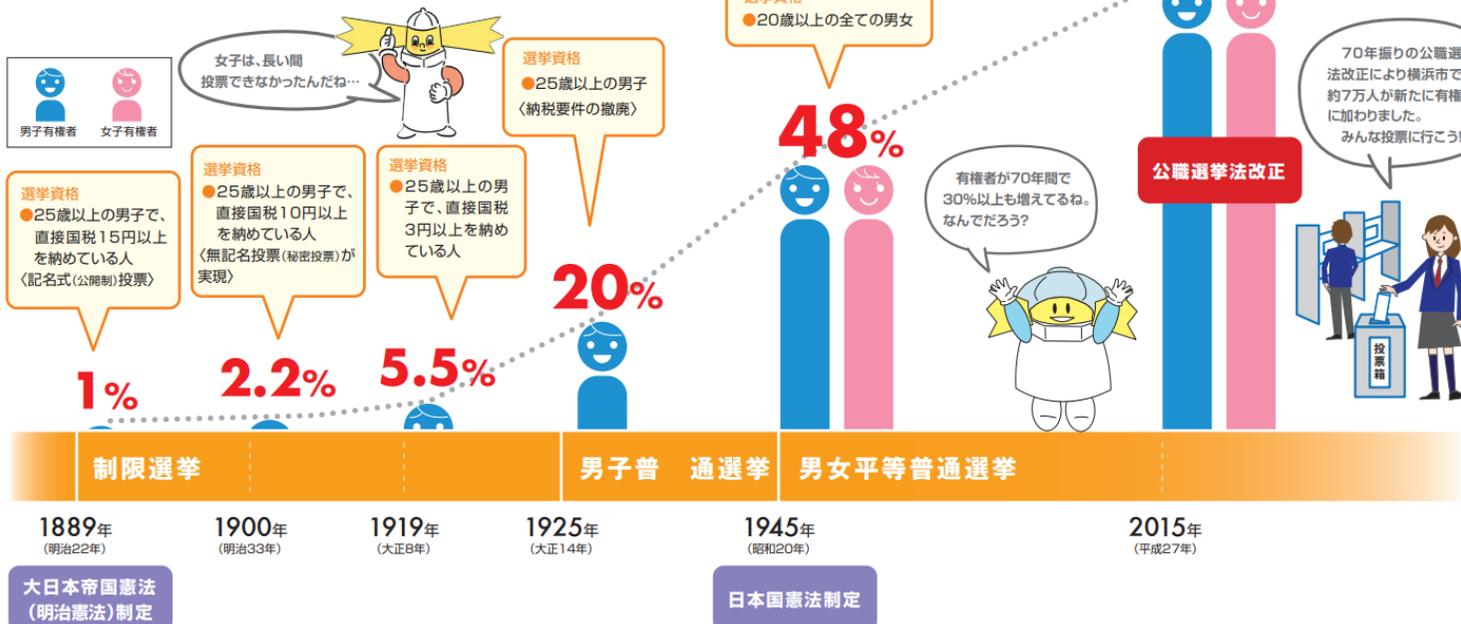
各種団体や自治会・町内会等から推薦された推進委員14名と推進員107名により構成され、選挙時の街頭啓発などの活動を行っています。



## 選挙に関するマメ知識

### 選挙権の歴史だよ。

当初は、人口の約1%しか投票できなかったんだね。



## 「選挙の3原則」



- 1 普通選挙  
選挙権は、一定の年齢に達したすべての国民に与えられる
- 2 平等選挙  
選挙人一人に一票。性別・財産・学歴などでの差別はない
- 3 秘密投票  
誰が誰に投票したかが、わからないような方法で選挙がおこなわれる

## 青葉区明るい選挙推進作文コンクール二〇二三を終えて



青葉区明るい選挙推進作文コンクールは今年で第七回目の実施となりました。今回は一〇七作品の応募がありました。四月には統一地方選挙が執行されたこともあり、選挙を身近に感じ、まだ選挙権はないものの当事者意識をもって書かれている作品が多くありました。

さて、私たち青葉区明るい選挙推進協議会は、推進員と事務局がメインとなって、区内中学校校長三名、青葉区選挙管理委員会委員長、青葉区長の皆様のご協力のもと、一つ一つの作品を読ませていただき、審査を行いました。

審査基準は次の通りです。

- 一 横浜や青葉区、地域に対する思いが感じられること。
- 二 選挙や政治・社会の仕組みについて正しく理解していること。
- 三 時事問題について興味を示し、適切に取り入れていること
- 四 知識、事実を並べるだけでなく、独自の発想、意見が述べられていること。
- 五 文脈がしっかりしていて、論理が一貫していること。

結果、「青葉区明るい選挙推進協議会会長賞」、「青葉区選挙管理委員会委員長賞」、「青葉区長賞」が各一名、「えら坊賞(佳作)」五名、計八名の入賞を決定いたしました。

どの作品も、独自の視点から選挙について調べ、よく考えられていました。また、横浜市課題でもある若年層の投票率の低さに言及している作品も多く、その原因と対策等について、中学生ならではの純粋な気持ちや素直な感想、独創的な意見が述べられています。自分たちの未来を自分たちが主体となってより良いものになりたいという思いを感じました。

今回寄せられた一〇七作品の思いをしっかりと受け止め、今後の明るい選挙の啓発活動に活かしていきたいと考えております。

ご協力いただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

青葉区明るい選挙推進作文コンクール二〇二三審査員長

青葉区明るい選挙推進協議会会長

岩谷 力

目次



― 青葉区明るい選挙推進協議会 会長賞 ―

選挙管理委員の白紙投票への思い

あかね台中学校 二年 宇野 千絢 . . . 1

― 青葉区選挙管理委員会 委員長賞 ―

その一票が日本の未来につながる

鴨志田中学校 三年 嶋津 遼 . . . 3

― 青葉区長賞 ―

三年後に向けて

鴨志田中学校 二年 鈴木 晴香 . . . 5

― 佳作 えら坊賞 ―

選挙に行く意味

あかね台中学校 二年 鶴藤 樹里 . . . 7

一票の大切さ

谷本中学校 三年 田中 百果 . . . 8

私たちの一票で

谷本中学校 三年 千葉 彩香 . . . 9

関心の上に成り立つ選挙

谷本中学校 三年 松倉 影虎 . . . 10

あなたのその一票が未来を変える

山内中学校 三年 延廣 里華 . . . 11

## 青葉区明るい選挙推進協議会会長賞



### 選挙管理委員の白紙投票への思い

あかね台中学校 二年 宇野 千絢

昨年十一月、私の学校では生徒会選挙が行われ、私は選挙管理委員会として活動した。選挙公報の撮影から始まり、朝の選挙運動、応援演説、そして開票まで、委員会で役割分担をした。そして一年間、私たちは「白紙投票・無投票をゼロに」という目標を掲げ、活動を行った。

だが、実際に開票作業を行ってみて、白紙投票や無効票が全体の二割から三割程度あったことに驚いた。学校では全員参加のこの選挙において、これらの票は、実際の選挙においては投票に行かないことと同じなのではないかと思った。そこで私は、この目標は、今の日本の選挙にも同じように必要なものではないかと思った。なぜ、学校でも実際の選挙でも、白紙投票や無効票、投票に行かないという選択になるのかを考えてみた。

第一に、選挙に関して理解不足の人が大勢いるのではないかと思う。選挙に行かないことで、民意が完全に反映されないことの重大さに気が付いていないのではないか。「自分一人が選挙に行かなくても、何も変わらない」これは、やはり学校での白紙投票をしているのと同じではないのかと思う。

第二に、公約に納得できない・興味がない等、皆が望む公約がないことで投票に行く意味を失っている、もしくは白紙で拒否の意思を示している場合もあると思う。今の学校や地域にとって、本当に必要で、皆が望むことを公約にすべきである。学校生活に関係がない、また、住民のためにならないことを公約にしても票は入らないのではないかと思う。

様々な考え方があり、学校での目標のように白紙投票・無効票を完全に無くすことは難しいのではないかと思った。しかし、減らすことはできるのではないかと考えている。

その案として、第一に、既に小学校の出前授業で行われている、「せ

んきよフォーラム」を中学・高校でも実施すべきだと思う。生徒会選挙だけでなく、学校や地域の課題を一人一人自ら考え、その解決案を議論し、投票で決定する。そして公約を必ず実行し、その変化を実感する。これにより、自分たちが主体であり、選挙を通じて自分たちの一票で世の中を変えることができるという意識に繋がる。

第二に、白紙投票や選挙に行かないことは貴重な一票を無駄にしていることに気付くべきだと思う。以前、学校で白紙投票が多かった時があり、その理由に、「学校の規則に反した公約があったから白紙投票にした。」というものがあった。私は白紙投票では、自分の本来の意思表示ができずもったいないと思っている。母もよく、「自分の一票を入れる事が大事。選挙に行かないと自分の意思表示ができない。」と言って選挙に行っている。

私たちは選挙という行動で、世の中を変えることができるということとを今一度認識するべきだと思う。そして、生徒会選挙、日本の選挙から、白紙投票を減らすことが出来、投票率も上げることができると思っている。

〈講評〉

中学校での日常の学校生活から選挙について考えを深めている素晴らしい作品です。自らの生徒会での選挙管理委員会の経験の中から、選挙のあり方や選挙の大切さを訴えています。白紙投票や無効投票や棄権は、自身の意思表示としての選挙を理解していないのではなにか、また、公約が納得できなくて棄権する人へは皆が望む公約が必要である、そしてまた、選挙に興味がないとして棄権する人へは、選挙に行くことで世の中を変えることができると、しっかりと述べています。身近な生徒会選挙、そして日本の選挙での白紙投票を減らすことの大切さ、また、棄権を減らすことは投票率を上げることができると、しっかりと考えられています。

## 青葉区選挙管理委員会委員長賞



その一票が日本の未来につながる

鳴志田中学校 三年 鳴津 遼

最近の選挙というのは、昔の制限選挙と比較して自由で平等な選挙といえますが、逆に「選挙がしたい人」、あるいは「政治をよく知っている人」だけが選挙に参加しているという、中途半端な選挙になっているのではないのでしょうか？ これでは投票した一部の人の意見が国民の意見として反映され、結果からすると昔の制限選挙と変わらないのではないのでしょうか？ なぜなら、制限選挙も投票できる条件を満たしている人だけの意見を国民の意見として反映していたからです。

僕は常々、なぜ大人には参政権があるというのに選挙に参加しないのだろうと思っています。特に、二十代の若者の投票率は低く、令和三年の衆議院議員総選挙では三割にとどまっているというのが今の現状です。

若者が選挙に参加しない主な理由として、「選挙に関心がないから。」というのがありますが、なぜでしょう。僕には二つの理由があると思います。

一つ目は、専門用語の使いすぎにより、最近の政治が全く分からないからです。僕にもこんな経験があります。選挙とは少し関係がないですが、一度裁判所の傍聴に行ったときに、弁護士が言っていることがよく分からなくて聞く気が起きなくなりました。政治家も同じです。ニュースなどを見ているも、政治家は記者に対して難しい言葉を使って質問に答えています。しかたのない部分もありますが、これでは若者が政治に興味がなくなってしまうのも当然でしょう。

二つ目は、最近の若者は新聞をとらないからです。スマホでも見れますが、ネットニュースには少し曖昧な部分があります。しかし新聞は政治的な内容が詳しく載っていてとても分かりやすいです。なのにも関わらず、若者のネットニュースの利用率が七割で、新聞が一割以下になっています。また、若者がネットニュースで政治的ニュースを一日七分しか見ていないというデータがあります。普段から政治にふ

れておくことによって、政治に興味が湧いてくるのではないのでしょうか。

以上の二つの理由が若者が政治離れしている理由だと思います。

若者が政治にふれる場を提供し、支援していくのも政治家の役目であると思います。それにこたえるのが若者で、積極的に選挙に行くべきです。投票をしないというのは、生きにくい日本の未来を作ることと同じです。「一票くらい変わらないでしょ。」、まさに「塵も積もれば山となる」です。「一票くらい変わらない」という思考が山となつて、二十代の若者の投票率が三割以下になつてしまうのです。これは、全国民で改善していくべき課題だと僕は思います。

僕は、二学期から社会で公民を学びますが政治をよく理解した上で、十八歳になつたとき選挙に参加できるように、今後の授業を集中して受けたいと思います。

〈講評〉

近年の公職選挙での投票率の低さ、取り分け若者たちの投票率の低さを指摘し、この政治に対する無関心は主権在民の根幹である選挙制度をも揺るがしかねず、昔の「制限選挙」と同じになつてしまうと危惧する点、独自の視点でよく現状の問題点を分析出来ています。また、若者たちの投票率の低さの原因を中学生の目を通して詳しく述べ、その対策も提起している点、問題意識の高さを感じます。今後も政治や社会問題に目を向け「その一票が日本の未来につながる」と強い信念が伝わってくる作品です。

## 青葉区長賞



三年後に向けて

鴨志田中学校 三年 鈴木 晴香

私は三年後、選挙に行くだろうか。二千十六年六月に改正公職選挙法が施行され、選挙権年齢が二十歳から十八歳に引き下げられた。今まで選挙というと、立候補者のポスターの掲示や駅前での街頭演説、選挙運動カーなどを見かけることはあったが、自分とは遠い存在に感じていた。しかし、選挙権が得られる十八歳までたった三年、そう考えると急に選挙が身近なものに感じられる。

では一体選挙とは何なのか、まずそこから考えてみることにした。選挙で決められるのは、衆議院および参議院の国会議員、県知事、市議会議員などの政治を行う人、つまり私たちの代表者である。私たちの代表者を選ぶとなると、その人が何を問題だと捉えて、どう改善しようとしているのかを知る必要がある。また個人としての考えだけではなく、その人が属する政党がどのような考えに基づいて活動している、どのように政治を進めようとしているのかも知らなければ、代表者として選ぶことは出来ない。しかし正直、私は今どんな政党があり、どんな人が政治を動かしているのか、神奈川県知事・横浜市長の顔と名前もパツとは出てこない。

しかし日々生活している中で、選挙後に大きく変化があることも体感している。身近なところでは、横浜市の中学校がハマ弁から給食になったり、医療費の個人負担が中学三年生まで無くなったり、学校で一人一台クロームブックが使えるようになったのも選挙によって選ばれた代表者が決めたことだ。これらは選挙前に候補者が掲げたマニフェストに則って実行されたもので、投票によって票を投じた人の意見が反映されていると言える。こうして考えると政治は私達の身近にあつて、そして政治を行う代表者を決める選挙は、私たちの生活に直につながっている。私が三年後に手にする選挙権とは、私たちの意見を政治に反映させるための大事な一票なのだ。

十八歳まであと三年。まずは生活の中で政治を見つけよう、知ろう

と思う。どういう人たちが、どういう考えで政治を行っているのか、まずは日々のニュースを見るところからスタートしようと思う。政治は決して遠い存在ではなく、身近なものであるという当事者意識をもって、政治を見つめてみようと思う。そして三年後の私は、しっかりと自分の意思を持って、選挙に行って投票したいと思う。

△ 講評 △

選挙権年齢を三年後に控え、自身の現状も認識しながら選挙の意味と私たちの生活に及ぼす影響を丁寧に考察した作品でした。特に横浜市での選挙結果により自身のまわりで起こった事例をあげたことで、選挙や政治は遠いところの話ではなく自分たちの生活に大きく影響していることが分かりやすく伝わってきました。これからも選挙や政治についてさらに学び、三年後には自らの意思で積極的に社会に参画できていることを期待しています。



## 選挙に行く意味

あかね台中学校 二年 鶴藤 樹里

兄は高校三年生で、もうすぐ十八歳になり、選挙権を取得する。ところが兄は、選挙には行かないと思うと言う。なぜ、と聞くと、別に自分が投票しても、何かが変わるわけではないからと言うのだ。でも、わざわざ選挙権の年齢を満二十歳から十八歳に引き下げたのだし、選挙権も権利なのだから、高校生だって権利行使すれば何か良いことがあるのではないかと思ひ、そもそも選挙権とはどんな権利で、なぜ十八歳に引き下げられたのかを調べることにした。

総務省のホームページで理解したことを簡単にまとめれば、選挙権とは、国会議員や市区町村議会議員を選ぶために投票する権利のことで、選ばれた議員が、国であれば法律を、市区町村議会であれば条例を定めることを通じて、政治を行われると説明される。例えば、税金をどのように集め、その使い道を決定するのも、政治の役割だというのである。そして、選挙とは、このような政治に参加する手段の一つであつて、これを間接民主主義というのだそうだ。このように説明されると、確かに自分の意見が反映されるように思われるが、自分の投票した人が当選しなかったら、また、当選しても少数派だったら、投票を通じて政治参加しても、自分の意見が通らないことになってしまう。兄はこのことを言っていたのだろう。

でも、本当にそうなのだろうか。自分の意見が通らないからと、投票せず、政治参加をあきらめれば、ますます一部の人だけの考えによって政治が行われることにならないだろうか。今は少数派でも投票し続けることで意見表明し、多数派は逆転されるかもしれないと思えば、少数派の意見も尊重して、政治活動を行ってくれるのではないだろうか。やはり、選挙権は行使して、投票はすべきなのだと思う。

ところで、もともと、高齢者の方の投票率が高いところに、少子高齢化のため、高齢者の声が政治に反映しやすいことから「シルバー民主主義」と呼ばれることもあるそうだ。しかし、若者の意見の反映しない政治に、若者の未来が決められてしまつてよいのだろうか。若者に未来の日本のあり方を考えてもらひ、政治に関与してもらいたいというのが、選挙権年齢が引き下げられた目的なのだろう。

こう考えてくると、中学生の自分であっても、社会や経済、国際問題などに関心を持つことは、将来、投票を誰にするのかを考える上で、大切なことだと思う。まずは、身近な横浜市の問題を考え、横浜の地方議会選挙がどうなっているのかを調べてみることから始めてみよう。また、将来のトレーニングという意味で、学校生活に関しても、他人任せにせず、生徒会活動に積極的に参加することは大切だと思う。次の生徒会役員選挙に立候補することに、私はこの夏、決めました。

## 一票の大切さ

谷本中学校 三年 田中 百果



選挙は、市民の声を反映する手段であり、私たちの生活に大きな影響を与えます。自分の関心や価値観に合った政治家に投票することで、自分自身の政治に対する意識が高まることにも繋がるでしょう。

しかし、選挙の重要性を理解していても、投票率が低いことが多いのが現実です。実際に、令和三年の横浜市長選挙の青葉区の投票率は、五十・六七パーセントと、約半分の人しか政治に参加していないことが分かります。では、なぜ政治に参加する人が少ないのでしょうか。選挙への関心が低いだけでなく、投票を行うことが面倒だと感じている人が多いのではないかと思います。

他にも、選挙率が低い要因としては、政治についての情報不足や不信感があるからなのではないかと思えます。候補者や政党の情報が不足していると、選挙に参加する意味を理解しにくくなったり、投票することが難しくなったりします。また、政治家や政治に対する不信感や不満が多い場合、投票する意欲が低下したり、投票しようとする意識が低下したりすると思います。

平成二十八年、選挙権年齢が十八歳に引き下げられ、より多くの人が政治に参加できるようになりました。それに伴い投票率は増加するように思われましたが、そうではありませんでした。やはり、十八歳の若者も政治の情報不足や政治に対する関心の低下が関係しているのではないかと感じました。

投票率が高ければ良いというわけではありません。きちんと候補者の政策と政策に対する取り組みを理解し、投票しなければ意味がないと思います。

私は十八歳になり、投票権を得たら絶対に投票しに行きます。そして、与えられた大切な権利を無駄にすることなく、大切な一票として、責任を持ちたいです。そのためにも、十八歳になるまでに政治の仕組みについて理解し、関心を深め、投票できるようにになったら、社会に貢献できるようにしておきたいです。

## 私たちの一票で

谷本中学校 三年 千葉 彩香



「投票することは大事です。」周りの大人はみんなこう言う。だが、私は今までそんなに選挙を大切だと思っていなかった。しかし最近ニュースを見てみると、投票率が低下とよく報道されているのを見かけ、興味が湧いた。そこで、投票率が下がっている理由、その影響について調べてみた。

初めに投票率が低下しているのは、若い世代が選挙に関心を持っていない又は投票に行くのが面倒くさいという理由からだ。しかし投票に参加しないことで損をするのは若い世代だと言う。それはなぜか。若い世代の投票率は約四十パーセント、それに比べ六十歳の投票率は約七十パーセントである。この差によって生じる問題は、若い世代の意見・考えが政治に反映されず、反対に六十歳の方達の意見・考えのみが反映されてしまうことである。もちろん若い世代以外の意見も大切だと思う。しかしこれからの日本社会を担っていくのは若い世代であり、その若い世代の意見が反映されないと動きにくくなってしまわないかと私は思う。では投票率を上げるためにはどうしたら良いのだろうか。

第一に、インターネットでの投票を可能にすることだ。そうすることで、いちいち投票所に行くという手間も省けるのに加え、投票しやすいという利点があるからだ。

第二に、投票所に行きやすい雰囲気を作ることだ。投票率の高いオーストラリアの投票所は、さまざまな出店が並び、まさに「お祭り」のようだそう。しかしお祭りのようにすることで、投票＝真面目にやらなければならないという暗い認識を持ち選挙を遠ざけている若い世代の認識を変えることが出来るのではないかと思う。お祭りのような投票所だったら行ってみようかな、案外暗くないんだと思ってもらうことで、投票率が上がりより良い日本社会を作れると思う。

私はまだ有権者ではないが、私の一票で社会をより良くできるのなら、有権者になる前に、政治について勉強し自分の考えを持っておこうと思った。私たちが将来担う日本社会をより良くするために。



## 関心の上に成り立つ選挙

谷本中学校 三年 松倉 影虎

二〇一六年、日本において公職選挙の選挙年齢を二〇歳以上から十八歳以上に引き下げられました。これは少子高齢化が進む中で、未来の日本で生きていく若い世代に、現在そして未来の日本のあり方を決める政治に関与してもらいたい、という意図があるからだと言われています。そこで総務省が公示している令和三年の衆議院議員総選挙における年代別投票率を見てみると、十代が43.21パーセント、二十代が36.50パーセントでした。その差が6.71パーセントあります。この差は、僕は十代には高校の先生等が選挙に行くように声かけをしていることが影響しているのではないかと推測します。僕には大学生の姉がいます。姉が高校三年生だった時に、ちょうど選挙がありました。担任の先生が、「十八歳になった子は選挙に行きましよう。よく考えて投票してきましょう。」と言っていたそうです。既に十八歳になった友達は、喜んで投票に行ったそうです。しかし、まだ誕生日が来ていなかった姉は選挙に行ける友達がうらやましかったと言っていました。このように、十代は学校の先生の指導のおかげで投票する事に興味を持たれたからだと思います。

しかし、他の年代と比べると、若年層の投票率は低い水準です。この差は選挙への関心度の差に違いないと思います。学校や家庭で政治や社会の問題に、小さい頃からあまり触れていないからかもしれません。日頃から選挙の話をしていれば投票に行くことが当たり前になると思います。

以前ある小学校で模擬選挙をしているというニュースを見たことがあります。数名の先生が立候補者となり、生徒が有権者というものでした。このような体験をすることで一人一人の一票の大切さが分かり、どの立候補者が自分の考えに合っているかの判断力が身につくのではないかと思います。

中学校でも生徒会選挙だけでなく社会問題をテーマとした模擬選挙をすることで、生徒が立候補者と有権者の両者の立場を経験できます。それによって選挙への関心が高まると思います。小さい頃から模擬選挙を経験することで投票率増加に繋がると思います。

僕も今から政治に関心を持ち、家族と日頃から社会問題について話し、十八歳になった時には自分から進んで、投票に行きたいと思います。

あなたのその一票が未来を変える

山内中学校 三年 延廣 里華



「六十・九パーセント」この数値はなるほどおぼに掲載されていた、令和三年十月に執行された区別投票率の青葉区全体の百分率です。区別投票率は全体、十八・十九歳共にトップでした。なぜこのような結果になる事ができたのでしょうか。まず私は、それぞれの区の平均年齢に目をつけました。調べてみると、比較的投票率の高かった青葉区、栄区、都筑区は全て全国平均の五十一歳よりも下回っており、青葉区、都筑区は神奈川県平均も下回っていました。先程あげた三区の中で一番平均年齢が若かったのは、四十二・九七歳で、都筑区でした。これを見ると、平均年齢が若い方が投票率が高いように思えます。しかし、横浜市の年代別投票率を見てみると、最も低かったのは二十代、次に低かったのは三十代でした。逆に最も高かったのは七十代、次に高かったのが六十代と、五十歳から七九歳までの投票率は五十パーセントを超えていました。

そこで私はなぜ、平均年齢が低い方が区別の投票率が高かったのに、神奈川県の年代別投票率は五十代から七十代と、区別とは反対の割合になったのか疑問を抱きました。私はこの理由として、区ごとに行っている環境づくりヒントがあるのではないかと考えました。私は、一番投票率の青葉区の「誰もが投票しやすい環境づくり」について調べてみました。一つは今まさに書いている作文コンクールです。

「青葉区明るい選挙推進協議会」は青葉区民まつりに参加したり、作文コンクールをしたりして、選挙をより身近に興味を持てるようにしています。選挙について興味を持って、知ってもらう事は投票率を上げることにもつながると思います。また、神奈川県立市ヶ尾高等学校では、実際の国政選挙での模擬選挙をしたり、生徒会選挙を通じて日常的にも社会参画への関心を高める主権者教育を行っているそうです。

このように、様々な工夫の上で、今の青葉区が成り立っているのです。しかし、日本財団ジャーナルの投票率の目標は七十五パーセントと、まだまだ投票率を上げる必要があるといえるでしょう。特に、わずかな票の移動で結果が大きく変わる小選挙区制では、一人一人の投票をすることがとても重要になります。自分が投票することが、これから住む自分の町をより住みやすくすることにつながるのです。これからの国や県、市や区を担う一人として、市ヶ尾高校のような取り組みをする学校が増えれば、投票率が上がり、住みやすい町が作られていくと思います。自分一人でも選挙についての知識があることが大切だと気がつき、日本の政治や選挙についてしっかりと学び、自分の意志を持って、三年後の選挙を価値のあるものにしたいです。



## 青葉区明るい選挙推進作文コンクール2023入賞作品集

<発行>

令和5年11月

青葉区明るい選挙推進協議会／青葉区選挙管理委員会／青葉区役所

〒225-0024

横浜市青葉区市ケ尾町31番地4

TEL 045-978-2205~7

FAX 045-978-2410

☆入賞作品は、青葉区明るい選挙推進協議会のホームページでも公開しています。

青葉区明るい選挙推進協議会

検索

主催 青葉区明るい選挙推進協議会・青葉区選挙管理委員会・青葉区役所

後援 横浜市教育委員会